

# レポートの書き方

星槎大学教務委員会

レポート等を作成する際に守ってほしい代表的な注意事項です。ここにも掲載したこと以外にもいろいろな引用のルールがあります。細かいルールについては、渡邊淳子（2022）『〈改訂版〉大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』研究社（ISBN 978-4-327-38488-3）を参考に学修してください。

## 1. 引用の示し方

### 1) 引用とは

引用とは、自身が作成するレポート等で他者の著作物（書籍、雑誌、インターネット上の情報等）の文章などを使用することです。

文章を引用する方法には、大きく直接引用と間接引用があります。

直接引用の場合、「原文を一字一句正確に引用」し、引用部分を「○○○」（カギかっこ）で囲み、出所（引用元）を明記しておく必要があります。引用が必要以上に長くならないようにしてください。なお、引用部分に「」がある場合は『』を使います。

間接引用の場合、原文の内容を自分で要約して再構成し「自分の言葉」で表現します。なお、どこまでが間接引用であるのかが第三者にわかるようにするとともに、出所（引用元）を明記しておく必要があります。

引用した部分の出所（引用元）を示さずに、あたかも自分が書いたように見せかけてしまう行為は、「剽窃」という不正行為となります。そのため、引用（直接引用・間接引用）した場合、出所（引用元）を必ず明記して、適切な引用をするように心がけてください。出所（引用元）を明記しない場合は、作者や出版社が有する著作権を侵すこととなります。

また、「孫引き」（参照している文献に他の文献から引用された文章をそのまま用いること）も望ましい引用方法ではありません。「孫引き」に当たる場合、元の文献を確認して引用するようにしてください。

### 2) 引用文献と参考文献の違い、注の扱い

文献とは、すでに公表されている著作物を指し、書籍だけではなく、雑誌（学術論文が掲載されている紀要や学会誌を含む）、インターネット上の情報、官公庁の発行物を含んでいます。

引用文献： レポートを執筆する際に、本文に文章を引用した文献を指します。

参考文献： レポートを執筆する際に参考にしたが、本文には文章を引用していない文献を指します。

注： 本文の記述を補うものです。本文に引用すると流れを妨げる、あるいは文脈からは外れるが、どうしても指摘しておきたいことや、詳しく説明する必要があることは、注として記述します。注は、原則として文中の該当箇所に<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>と表記し、本文の後に注の内容をまとめます。

### 3) 引用の際の注意点

#### (1) 本文中での引用文献の記述方法

本文中で引用文献を示す方法には以下の方法があります。いずれの場合も、著者名、出版年を示し、直接引用の場合には引用ページも記載しておきましょう。なお、引用ページを表す場合、単ページは p. ●、複数ページの場合は、pp. ●-●が一般的です。

(例1) 山口 (2010)は「…」(p. ●)と述べている。(直接引用の場合;「…」が引用部分)

(例2) 「…」(山口, 2010, pp. ●-●)(直接引用の場合;「…」が引用部分)

(例3) 行動についての研究方法には、◇◇、□□がある(山口, 2010)(間接引用の場合;◇◇、□□は「自分の言葉」で表現)

#### (2) 引用文献リストの記述方法

引用文献リストは、基本的に本文の後に作成します。掲載順は、著者のイニシャル(姓)のアルファベット順(ABCの順番)に掲載することが一般的です。

① 図書の場合は、基本として、著者名、出版年、『著書名』, 出版社を示しておきます。なお、以下は記載方法の一例です。専門分野により記載方法が異なりますので、記載方法が気になる場合は各科目の担当教員に問い合わせてみてください。

##### 書籍(和書)の例

山口薫 (2010) 『発達のがかりな子どもの上手なほめ方しかり方—応用行動分析学で学ぶ子育てのコツ』 学研教育出版

##### 翻訳書の例

Hebb, D. O. (1972) Textbook of psychology, 3rd ed, *Philadelphia: Saunders.* (ヘップ D. O., 白井常・鹿取廣人・金城辰夫・今村護郎 訳 (1975) 『行動学入門第3版』 紀伊国屋書店)

##### 書籍(洋書)の例

Gibson, E. J. (1969). Principles of perceptual learning and development, New York: Appleton-Century-Crofts

② 論文(雑誌)の場合は、著者名、刊行年次、タイトル(英文の場合は,”で挟む)、雑誌名(洋雑誌の場合はイタリック)、巻(号)、論文の掲載ページの順に記述してください。

##### 論文(和雑誌)の例

佐藤方哉 (2008) 「行動分析学は共生科学にどのような貢献ができるか」 共生科学研究 4, pp. 1- 9

##### 論文(洋雑誌)の例

Novik, L. (1988). “Analogical transfer, problem similarity, and expertise” *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 14, pp. 510-520.

③ インターネット上の情報を引用した場合は、URL名だけでは不十分で、著者(誰が書いたか—会社か個人か)を明示し、法人名か個人名を明記することが必要となります(著者名の不明な場合は引用しない方がよい)。また閲覧年月日を必ず添えることも忘れないようにしてください。

## インターネットの例

文部科学省 (1999) 「学習障害児に対する指導について」

<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/002.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/002.htm)> (2024.10.15 閲覧)

American Psychological Association (2004) APA topic: ADHD.

<[http://www.apa.org/topics/topic\\_adhd.html](http://www.apa.org/topics/topic_adhd.html)> February 25, 2004.

## 2. レポートの不正行為に対する注意

レポートは自分で調べ、自分で考え、そして自分で作文した文章で作成しなければなりません。他者の文章を引用する場合は、出所（著書名、書名、出版社名など）を、明記する必要があります。出所を明記せず、他者の文章を自分が作成した文章であるかのように使用すると、著作権侵害となります。

また、他の学生が作成したレポートの文章を、全体的・部分的にかかわらず使用した場合は、そのレポートは評価の対象になりえません。このような行為は、大学として固く禁止します。

本学は、「自分の頭で時間をかけて考え、自分の言葉で表現する」ことに重きを置いています。したがって、自分自身でレポートを作成してください。

■下記の行為は、不正行為として厳罰の対象となります：

- 1) 出所を明記せずに他者の文章を引用すること（web ページを含む）
- 2) 他者が作成したレポートを自分が作成したものとして提出すること（部分的な使用も含む）
- 3) 著作権侵害（図表や絵の転用を含む）

■不正行為を行った場合の懲戒処分：

改善が見られない場合は、学則に従って退学を含む厳重な処分を下す場合があります。

## 3. Apple が提供している Pages（ページズ）でレポートを作成した場合の提出方法

星槎大学ではレポートはマイクロソフト社の「Word」で作成するよう求めています。Mac の PC や iPad 等を使用してレポート文書を Pages で作成した場合は、Word 文書に変換してから提出してください。変換方法を以下に示します。

ただし、完全な互換性はなく、レイアウトなどは意図せず変わってしまうことがあるので、可能であれば初めから Word で作成することをおすすめします。

《変換方法》

Pages のメニューで、ファイル>書き出す を選び、Word を選択して書き出します。（次頁図を参照）



### 参考ページ

Pages、Numbers、Keynote ファイルを Microsoft Word、Excel、PowerPoint、PDF などに変換する

<https://support.apple.com/ja-jp/105050>

以上